LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

WEB MAGAZINE Vol.

23

LONGIN

作りたいミノーが、できました。

ルアーフィッシングの始まりといっても過言ではない、ミノーという存在。
巻き、操り、間を掴む……ルアーを操る楽しさを教えてくれるルアー。
様々なメーカーが挑む混沌としたジャンル。それがミノー。
ブランド生命を賭けてロンジンが挑んだスタンダードへの挑戦。
是非、ロンジンというブランドを体感してください。

NEW

HI-STANDARD

飛びと泳ぎの追求によって生み出したニューバランスミノー！ ハイスタンダード 120mm 19g 1,900円+税

全14色
※五十アユは
数量限定生産

フィンキールリップを搭載することでしっかりと水を捉え素早く立ち上がりでキレの良い泳ぎを実現。基本はローリングとウォブリングが5分5分に混ざり合ったウィフン・ロールアクション。流れや暴れの変化に合いバランスを崩したときには、フィンキールへ水が強く当たることでスライドアクションが生まれ、泳ぎにイレギュラーが加わりターゲットを誘います。レンジは 40 ～ 120 cmを広く(安定的に探るための使潜性を追求)ただきに設定。ウエイトボールの絶妙な配置とボディ形状、フィンキールを搭載することにより可能になった。今までのこのクラスのミノーの飛びを越える「スプールからライン を引き出していくかのような感覚」の飛距離をぜひ体験下さい！

http://www.longin.jp ホームページにてWEBマガジン発行中！ LONGINマガジン最新号 Vol.7 も約具店で無料配布中！

涸沼攻略

関東随一の汽水湖でランカーシーバスを狙う！

茨城県にある涸沼は、県内はもとより関東各地のアングラーがランカーシーバスを求めて訪れる人気の湖だ。しかし、行ったからといって簡単にランカーを手にできるほど甘い場所ではないのも事実。ここでは涸沼をホームに数多くのランカーをキャッチしている田口氏に、涸沼攻略法について解説してもらった。

Text by 田口知宏

近年シーバスの聖地とも謳われるようになった涸沼。ランカーシーバスを求めて全国各地より数多くのアングラーが訪れ、今ではハイプレッシャーレイクと化した涸沼では、最善のルアーチョイスとシーズナルパターンを理解しなければ、アベレージサイズはおろか、釣果無しなんて日も少なくは無い。

涸沼にいるシーバスの捕食対象は 100% イナッコと言っても過言ではないくらい、涸沼はボラの宝庫でもある。

流れの弱い汽水湖でありながら、ベイトは常に流動的であり、アングラーのキャスト範囲内で増減が激しく起こる。その一定量ではないベイトを相手に、ルアーサイズ・波動・レンジのマッチングを行えなければ、ヒットに持ち込む事は難しいであろう。涸沼名物 “ 釣れないボイル ” なんていう言葉が飛び交うが、これもベイトに着いている魚を釣ることが容易で無いことを象徴している。

ここでは私なりの見解ではあるが、涸沼でシーズンを通しランカーを狙うためのロンジンルアーの使い分け攻略法を解説する。

シーズナルパターンとサーチベイト

涸沼のシーズンは例年５月 GW 頃から本格化を迎え、10 月一杯まで楽しめる。約半年間あるシーズンをここでは３分割して、５～６月を春、７～８月を夏、９～ 10 月を秋と見立てて解説する。

サーチベイトとは、状況を広範囲に探る為１投目に選択するルアーを指すが、季節により１投目に選択するルアーは変化する。私の経験を基にサーチしながらランカーを狙えるルアーを紹介しよう。

【春（５～６月)】

開幕当初水温は 15℃ほど。ベイトとなるイナッコはボトム付近を回遊する。ナイトゲームではボイルの発生も少なく、シーバスが居るエリアをどう探したらよいのか、果たして居るのか？ と思わせるような静寂が多い。

この状況の中サーチベイトとなるのがキックビート。ボトム付近を回遊するイナッコの群れにルアーを当てることにより探して行く方法がよいだろう。魚の反応が水面に目視できないので、キックビート 15g のミディアムリトリーブでランガンスタイル、レンジは着底後ボトムスレスレをキープし続けることを重視して釣る。

何も当たらない状況であれば、イナッコもシーバスもその場所には居ないと判断し、効率良く移動することが吉だ。キックビート 15g では底叩きをしすぎるのでは？と疑問を抱く方もいるかと思うが、ベイト (イナッコ) の群が全く居ないシャローエリアにおいては、15g のキックビートをキャスト着底後リトリーブすると確かにボトムをゴツゴツとノックしがちになってしまう。

涸沼でパイロットルアーとなるのはフランキー。いままでの涸沼のパターンに当てはまらない釣り方が、数多くのランカーシーバスキャッチに繋がった。

しかし、イナッコの群

れに当たるとルアーがヒラを打ち跳ね上げられる形となるため、逆にボトムは取りづらい状況となるのだ。イナッコの群れの中に入った場合はスイムと平打ちを繰り返し、リアクションバイトを誘発する動きとなるので、15g のほうが使いやすい。

ベイトの豊富な涸沼で育ったランカーサイズのシーバスはファイトも強烈！　確実にキャッチするために、フックセッティングにも気を使いたい。

55㎜ 12g のほうがエサが居なければ引き心地はよいが、前述の理由から春はやや重めの 15g をチョイスし、エサが多くボトム付近に点在するエリアでベストレンジを引くのがよい。

この探り方のアドバイスとしては、ベイトであるイナッコをちょくちょく引っ掛けてしまっては効率が下がるので、フロントはノーマルフック、リアはガマカツトレブル SPMH ＃５へ変更するのをオススメする。ややリア重心になるが、キックビートはしっかりバイブレーションするので、ボトムスレスレをキープしベストレンジを引くことが可能だ。カラーは、春は濁りが強いのでチャートパールオレンジからサーチするのがベストだろう。

【夏初期（７月）】

梅雨明けを迎えるこの頃より水温は 20℃を超え、ナイトゲームでは頻繁にボイルを確認出来るようになる。イナッコは水面直下を回遊するようになり、体長も 10㎝前後へと成長するので、この時期からはフランキーがサーチベイトになる季節だ。

潜行レンジいっぱいに入れてタダ巻きで使用するが、一定方向へのキャストだけでなく周りの水面をよく見て、ベイトを目視で確認しよう。一概にサーチすると言っても、どのような状態でベイトが滞在し

ているかによりヒットへ持ち込む効率性は変わってくることを頭に入れておこう。

ベイトがゆったり泳いでいる、ジャンプしている、これは外敵も居なく安心している状態。ベストなベイトの動きは、水面に波紋を出しS字軌道を描き逃げ惑う動きと、水面下でシーバスに食い上げられる直前に出る動きのふたつ。とくにS字に逃げ惑う動きを見つけて確実にキャストできれば、かなりの高確率でヒットに持ち込める。

カラーは、濁りならチャートパールオレンジ、ドチャートマット、ピンクヘッドパールキャンディが、雨の急な増水による澄みならレンズキャディ、ボラからサーチすると良いだろう。

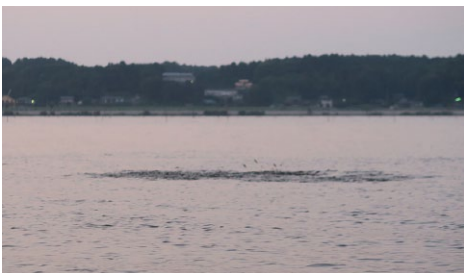
フックセッティングはガマカツトレブルRBMH #6を使用する。このフックはロングシャンクなので、一本掛かりでもエラ洗い時に外側からデスロックフッキングが可能だ。#6でも、3フック仕様なのでランカーがヒットしても3点掛けで安心のファイトができるのもいい。

スーパーボイルと涸沼最盛期

【夏後期（8月）】

高水温になる8月は朝マズメのトップゲームがベスト。涸沼特有のスーパーボイルが各エリアにて発生するので、ジンペンがサーチベイトになる。

エサが大量であることから、スライドアクション系のトップウォータープラグよりも、ポーズを入れたときに立ち浮き姿勢を保つジンペンが非常に効く。その理由は、横方向へ泳ぐベイトの中



ハイシーズンにはいたるところでスーパーボイルが起きるので、アングラーも否応無しに興奮状態に陥ってしまう！

フランキーの釣りがハマった涸沼で、田口氏は面白いようにランカーを連発！ HP に動画もあるのでそちらもぜひ観て欲しい。

で、ダイブアクション後に縦方向へ浮上する動きがアピールとなるからだ。

ジンペンはベイトサイズに合わせ 105 か 125 をチョイスする。フックセッティングは 105 がガマカツトレブル SPMH ♯ 4。125 がガマカツトレブル SPMH ♯ 3 の 2 フック仕様だ。どちらも連続してダイブアクションを 2 回ほど行ったら必ずポーズを入れることが必釣の肝になるので、覚えておいてもらいたい。反応が悪ければポーズタイムを延ばしていくようにするとよい。

朝マズメボイル終了後も、即諦めて撤収するのではなく、まだキャスト範囲内にスプーク状態で回遊するシーバスが居ることが多々あるので、必ずフォローベイトとしてレビン・レビンライトを投入してみよう。

夜間イナッコはシーバスから身を守るため、葦・テトラ・流入河川などへ逃げ込んで身を隠しているが、朝を迎えると鳥類、哺乳類などから逃れるために沖へと向かって葦や河川から一気に出動する。この出動タイムを狙いシーバスは捕食するわけだが、イナッコの群全体が出払うと、シーバスもその群を追従し、ショアラインを離れて沖へと徐々に移動していく。

沖目にはそのようなシーバスが着いたベイトの群れが点在するた

め、フルキャスト後すぐにリトリーブを開始し、やや速めのファストリトリーブで狙うと、タダ巻きだけでレビン特有のスイングスラロームアクションがバイトを誘発する。

涸沼でベイトとなるイナッコ（ボラの稚魚）。涸沼の攻略は、イナッコに着いたシーバスをいかに探せるかにかかっている。

レビンライトからレビン 20g へのローテーションで、朝マズメのボイル終了から 30 分だけでも粘れば、レビンがプラスワン釣果へと導いてくれるはずだ。カラーは私的な好みだがブラックキャンディで勝負することが多い。

【秋（9～10 月)】

涸沼シーズン最盛期となる秋、イナッコは 12㎝前後へ成長し、同時期に 2 パターンのイナッコパターンが混在するようになる。

1 つ目は急激な水温変化 (日中と夜間との気温差が大きくなる) によりイナッコに白点病が発生するパターン。このイナッコを私はカビボラと呼んでいるので、遊泳力の衰えたイナッコを一匹ずつ食い上げるのをカビボラパターンとする。

2 つ目は元気なイナッコが密集するエリアでおきるスーパーボイルパターンだ。2015 年は、両方のパターンをフランキーで完全攻略に成功したので、フランキーの使用法をさらに掘り下げて解説していこう。

基本となるフランキーの使用法

余談になってしまうが、私がフランキーと出会ったのはテスター就任以前に LONGIN スタッフの太田氏に、「余裕があるときで構わないんで、涸沼で試してみてください」と手渡されたのがきっかけだった。ファーストインプレッションは、かつて歴代涸沼水系で活躍してきたスローに使う水面波動系ミノー達と比較してしまったため、

フランキーもスローにリトリーブするという先入観にとらわれてしまい、「果たしてこのルアーで、涸沼のランカーシーバスを量産できるのか？」と思ってしまったのを覚えている。

レンジが合ってる場合は、ルアーの種類をコロコロ変えるよりもカラーをコマメにローテーションするのが田口流。

そもそもフランキーをスローに引くという考えが間違いであった。エサが多く、流れの緩い涸沼では、シーバスに対してルアーをエサとして認識させるためには強い波動が必要で、スローに水面を引くことへのこだわりは実は必要ないのではないか……。水面で波動を出しコールアップさせるのではなく、潜行レンジ最深でバイトを誘発できればよいのでは？と考えを変え、そのように試みてみることにした。

時期はトップゲーム最盛期前の梅雨時。逃げ惑うベイトのもじりの下を通すと、なんとフランキーで一網打尽にランカーを量産する事に成功。リトリーブはタダ巻きオンリーだが、リトリーブスピードが重要だったので、スピードは是非 LONGIN. のホームページにある動画でチェックして頂きたい。

レンジのマッチングも重要で、水温が上昇すればレンジも上がる。これにはロッド維持角度を調整して合わせて行った。まずは基本動作である潜行深度 MAX60㎝のミディアムスピードリトリーブから始め、イナッコボールが点在するベイトの量である状況をイメージして使用して頂きたい。

カビボラパターンの釣り方

カビボラパターンは一匹一匹確実に食い上げる捕食パターンが多く、遊泳するカビボラを目視しても単体でフラフラと泳ぐ姿が伺える。

なので、フランキーのスピードもスローに、ロッド角度も上段に構え使用するとよい。引き波が立つほどにトレースレンジを上げ、食い上げられる前のカビボラを演出するイメージで釣りをすればよい。

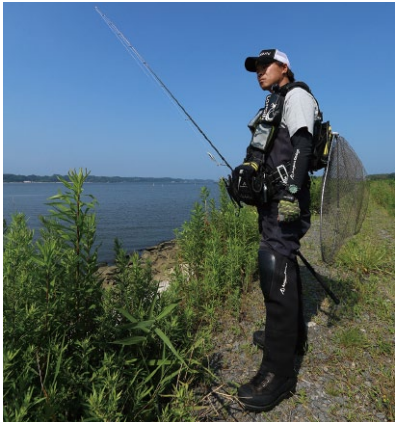
反応の無いときは、流れに対しクロスでキャストして水面直下をスローリトリーブし、ニュートラルに泳ぐカビボラをイメージしトレースする。これは秋の朝マズメや日中に特に有効的なので、是非試して欲しい。カラーは秋水色が澄んでくると黒が圧倒的に強くなるので、ブラックキャンディがオススメだ。

スーパーボイルを攻略する!

エサが大量で何を投げても掛けられないとき、俗に言う“食わないボイル”だが、シーバスに対してエサの比率が大きく非常に難攻なパターンだ。

イナッコボール点在の状況と比べると、視界全体一面真っ黒になる程のイナッコ絨毯。表層からミドルレンジまでどこを通してもエサに当たりまくる状態である。この状況の中、人間の心理として焦りと興奮状態で四方八方キャストを繰り返し、頻繁にルアーローテーションを試みるも、結果ノーフィッシュ……こんな体験をした方も多いのでは？

こんなときに有効なのが、フランキートランスフォーメーション釣法だ。まずは水面を良く観察し、ボイルの位置を確認。キャスト後３回転～４回転リーニングし、４秒～５秒ポーズを繰り返す、リーニングのみのストップ＆ゴーのアクションで狙う釣り方である。



日中は岸からベイトの動向を探りながらポイントを探す。一カ所に留まらず、ランガンスタイルを心がけるとよい。

ベイトが大量にいるボイルの中でイナッコは横方向に動くが、それと同じ方向へ引き続けてはシーバスへのアピールが弱い。フランキーのポーズ姿勢は尻下がりであることから、ストップ＆ゴーを繰り返すとまるで 3D ジャークのような縦方向へ S 字軌道を描くアクションでアピールするのだ。

バイトはポーズ時に集中するので、しっかり備えておこう。この釣法もジンペン同様、ポーズタイムを少し長めにとることも重要だ。釣れないボイルに遭遇したら信じて試してみて欲しい。

カラーは、エサが少なめのカビボラパターンではブラックキャンディ、ボラ、レンズキャディをセレクト。エサの多いスーパーボイルではドチャートマット、マットチャートヘッド、ピンクヘッドパールキャンディから入るとよいだろう。状況は一定でないのでローテーションは必須だ。

ここ近年アングラーも増加し難易度の増す涸沼だが、これを参考にしてランカーキャッチの近道となれば幸いだ。是非ロンジンルアーを使って涸沼のランカーシーバスを狙ってみてほしい。

LONGIN. が贈るフリーペーパー

ロンジンマガジン Vol.7

弊社製品取扱店にて好評配布中！

ロンジンマガジン Vol.7
配布価格：￥0（フリーペーパー）
版型：A5 版　24 ページオールカラー
発行：株式会社 LONGIN.
LONGIN. 製品取扱店にて無料配布中
（数に限りがありますので、品切れによる配布終了の際はご容赦下さい）

新製品であるハイスタンダードのみを特集したロンジンマガジン最新第７号が配布中！

テスター陣によるハイスタンダードのインプレや、製作者伊藤が語るハイスタンダー製作秘話など、ここでしか読めない内容が盛りだくさん！　ロンジンが魂を込めて作ったミノー、ハイスタンダードについて全てわかる一冊となっております！

ロンジンマガジンは無料配布！　弊社ルアー取扱店全店で配布しているので、店頭に無かった場合は店員さんに聞いてみて下さい！（弊社在庫があれば、お店へ送らせていただきます）。

ロンジンマガジンのご意見・ご感想もお待ちしております（HP アンケートよりお送り下さい）。

LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

WEB MAGAZINE Vol.23

発行日：2016 年 9 月 16 日
株式会社 LONGIN.